



414  
A 604



信仙臺表様、啓生此陣、日為後當、  
 下士族との成及、亂頗、有芝、  
 用提と極長との数念、西舎仕方、  
 之、防管、通一、見、及、及、代、長、方、向、  
 之、派、及、以、業、本、人、心、更、悔、愧、之、事、力、  
 之、殊、方、今、之、形、勢、暗、  
 之、安、死、信、光、  
 之、漢、之、三、極、口、之、事、の、  
 由、あり、  
 一、牙、百、五、六、  
 後、  
 中、者、昔、年、  
 夫、岩、手、  
 油、

大正十一年四月  
大隈侯爵寄附

1847



遂に當所を越え、其後多事空しく、時勢の變に  
 とも重なり、一時の勢、其後、却りて其  
 共無事、に散り、抗論の也、或又曰く、此  
 出た月、其後、漢の、  
 少事、  
 道、  
 一、人、  
 其、  
 是、

當所下、  
 其、  
 佐、  
 確、  
 其、  
 下、  
 其、  
 但、  
 其、

一 當新君以來各地に可憐を捜索  
 したる所強く人相を成す者たると  
 中者をもめ長身即同色本月三  
 日出遊各地巡廻し積徳を成し衆生  
 一一救済し初大者難ニテ時とて人  
 子をも不棄程者一丈若却出ぬ  
 此れまうたぬ酒田邊に可憐自遊遊  
 歩中却りて却り彼高説と信し方  
 向を誤りて者も可憐一可憐可憐

地に可憐捜索して及ぶ者即曾前文  
 金成を興くたはれ其の指書は自傳  
 示程又六の到り未々病急を承ふ  
 段有今一人戸海より者を山取田上  
 山邊に指書申取

但金成と申者ハ可憐又歌者十三  
 著出仕とて可憐師範子授出仕  
 其の形は可憐在り邊に可憐を  
 指書成れ...世間一人可憐  
 出仕の可憐...可憐...







水原市志文

考年租稅所代の元作徳米賣押市に  
 唐下民難派と必概習流演と三三社在九為三  
 陸若社の他下下との其の組臺拵故成  
 子必必如也布道を置知十南は道と換有し日  
 供給子他し管内友人、取地直た女し自城少租臺流  
 市強強隊取地以、外の年、ハ多租取斗改取との為  
 只今考取網一系出との也  
 水原市志文  
 大正六年 卯子下十三年

卯子下十三年

水原市志文

水原市志文